詞集

村雨

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
詞集

【Ｎコード】
Ｎ４６５０Ｖ

【作者名】
村雨

【あらすじ】
僕が作る曲の歌詞を載せていこうと思います。
曲より先に出来ているモノが大半になるので、曲そのものを聴くのはだいぶ後になる可能性もあります。とりあえずは単純に詞（詩）の詰め合わせと思ってください。

拙い作品ですが、読んでくださる方に少しでもインプットが増えれば幸いです。
感想・ご指摘お待ちしております。

スタンドアロン（前書き）

作詞：村雨
作曲：村雨

※曲は現在、鋭意製作中

スタンドアロン

聞き飽きた言葉は決まりなく広がって
際限ない選択肢を投げかける

鏡の中で言う「俺は僕じゃない」
そうです
なら僕は誰？そこにいるの？

独りでいいんだ
何も困らない
だってほら息ができる
血を流せる

誰かが嫌いな僕が嫌い
紛がないように手を止める

君の僕は言う「君は僕じゃない」
そうです
なら君は誰？ここにいるの？

剥がして痛いなら
そのまま触れなくていい
独りでなんとかするから

見上げた空
重なる多角形

光量が潰す翼は孤独を知り
手を放せば鳥は地を這う

君は知らないだろう、胸を貫く光
僕は知らないから、君の見えた光

手を放して
歩けなくなるから

飛べないのは背負った羽根が重いんじゃない
羽ばたいて欲しいと願えば鳥は空を乞う

ほどいた線の先（前書き）

作詞：村雨

※作曲未定

ほどいた線の先

君の好きな簡単な絵を
色を消して線に戻して
辿れば未来があるような気がして
カメラを持って立ちすくんだ

短すぎる時間僕は夢を見た
目を開いて現実にするつもりが
どうやら遅すぎたらしい

失いたくないよ　痛みさえ
開いた傷口から暖かい血が流れるなら
はじまりの笑顔だけ張り付いて
何も手放さないまま全て失っていく

映画館で単純な絵を
色は無くて線のままで
そのまま画面に移しとったら
電話の向こうで声震えてた

少し長い時間僕は躊躇った
それだけでも伝えたいことだけは
どうやら遅すぎたらしい

たとえば時間を戻せたとして

望む通りになるとして
変えたいことが多すぎて
変えてるうちに今日になる

それなら

失いたくないよ　痛みさえ
開いた傷口から暖かい血が流れるなら
はじまりの笑顔だけ張り付いて
何も手放さないまま全て失っていく

僕だけじゃないよな
君もきっと

視界から消える
君の名を呼ぶ
僕を消す

そう上手くは行かないよな
そうだよな

ルーツ（前書き）

作詞・作曲：村雨

※近日公開

ルーツ

不協和音が鳴り止むまで手を触れよう
鳴り止んだら此処にはいないよ
先に行くよ

望んだ世界はない　此処にはただ
紛うことない今さ　それだけ

見えない目の前は辛いのかな
でも戦い方は学んだろう

もう吸わない空気　埃ごと飲み干せ

出来るだけ高く手を掲げましょう
出来るだけ強く腕を振りましょう

放り投げた自分に触れてくれた
それで満たされた　嘘じゃないよ

オノレを刻むかけがえのないストーリー

嗄れるほど強く意のままを叫べ
痛いほど　心　空に解き放て

要らないモノばかり集めて
心に針を刺すだけの日々も
僕を成す愛すべき感謝の傷

不協和音が鳴り止むまで手を触れよう
鳴り止んだら此処にはいないよ
先に行くよ

意味ないことも要らない心も
際限なくぶつける時間があったなら
それでいいさ　きっと
どうにかやっていける

いつかこの場所を訪ねて
再び時間を戻して歩くなら
僕らの誇るべきルーツになる

白（前書き）

作詞・作曲：村雨

※作曲中

白

不定形　白のキャンバス
それに白い絵の具を塗る

不変性　明日の日程
否定理由探して乞う

僕を切り身をよじる
不恰好でも進むしかない
全てを知らないために
ただ一つでいい

そうやって生きてきた　笑えよ
不器用なんて今更
いつか見た未来
ただそれを塞ぐ白

無段階　空の連続
人は四角に切り取る

君を切り胸穿つ
不恰好でも笑うしかない
全てを知らないために
ただひとつでいい

そうやって生きてきた　笑えよ
目を閉じながら空見て
強く差す光
ただそれで満たす白

焦がす痛みを誇りに変える
その先の虹　踏みつける一歩

そうやって生きてきた　笑えよ
心臓共に鳴らして
いつか見た未来
ただそれを描く白

白（後書き）

どうも。

弾き語りしたくてつくってみました。
そのうちブログうpしたいです。

クロックワイズ（前書き）

作詞・作曲：村雨

※作曲中

クロックワイズ

有限の明日が過ぎていって
無限の昨日を想う
下らないゴミ溜め漁ったら
光る今日の糧はありますか？

永久の愛を歌ったって
刹那の機微に失せる
残らない声だけ叫んだら
歪む心の時計は回る

さらされた体温
失われた未来
閉まるドアの向こう
君の言葉を刻む

手を繋いで　もう一度
明日を失ってもいいように
触れた振動　消えない残像
噛み合う今この時　本当が鳴る

解けていく心臓
砕け散った過去
閉まるドアの向こう
僕の命を刻む

手を繋いで　もう一度
明日を失ってもいいように
触れた振動　消えない残像
噛み合う今この時　本当が鳴る

本当を鳴らす

クロックワイズ（後書き）

バンドっぽい曲を作りたかっただけで書きました。
だからだいぶ単純になってしまった；

証明の弾丸（前書き）

先に断っておきますと、詞じゃなくて詩のつもりです。

証明の弾丸

君の手には拳銃が
誰かを撃ち抜く弾丸が
引き金を引くその瞬間が
君の存在価値なんだ

伝えぬ想いに意味はなし
だから僕はゴミだらけ
増えてくゴミは溢れ出して
誰かが拾えば伝うかな

君の手には拳銃が
誰かを撃ち抜く弾丸が
撃たないならば死ぬだけなんだ
君の存在価値は無い

まだまだそんなもんじゃないだろ
まだそれじゃ代わりはいるだろ
まだまだそんなもんじゃないだろ
まだ君じゃなきゃ駄目じゃないぜ

価値　理由　それ証明
鳴らせよ心臓　零距離連動
鬱　未練　これ証明
示せよ傷痕　爆裂反応

まだまだこんなもんじゃないだろ
まだそれじゃ真似事なんだろ
まだまだこんなもんじゃないだろ
もう君じゃなきゃ駄目なんだよ

僕じゃなきゃ駄目になれ

証明の弾丸（後書き）

前書きにもある通り、詞じゃなくて詩です。
これは、「詞集」についた初の感想に「詩も読んでみたい」とあったので、書いてみたものです。
感想貰うと滅茶苦茶嬉しい。
みなさんください（笑）

やっぱり、どうしても「詞」っぽさが抜けないですね（笑）
まだまだだなぁ。

ｄａｗｎ（前書き）

作曲：ｊｏｋｅｒ

※同名のインスト曲に向けての詩

dawn

遠く陽炎を眺めて
ふと振り返ってみる
何か変わっているのだろうか
残したのは足跡だけなのか

さあ、陽は昇った
旅のはじまりには十分だろう
これ以上何を求める？
失うために歩くのだから

僕らは鳴らす　それだけでいい
今この時の感触を
また掴むためじゃない
まだ繋ぐためなんだ

遠く陽炎を眺めて
ふと振り返ってみる
全て変わってしまったんだよ
残せるのは足跡ですらない

さあ、陽は昇った
旅のはじまりだよ　ようやくだ
これからも何か求めて
失いながら歩くのだろう

僕らは鳴らす　それだけでいい

今この時の感触を
また掴むためじゃない
まだ繋ぐためなんだ

僕らが鳴らすんだ
見逃さないままで

ｄａｗｎ（後書き）

ｊｏｋｅｒっていうひねくれ者のギタリストと僕が中心となってＣＤを作り、文化祭で配ったことがあります。
そのときに一曲目として‘ｊｏｋｅｒ’が作ったインスト曲（楽器だけの曲）に対して書いてみました。
だから歌詞ってわけじゃありません。詩です。

対象があると詩は書きやすいですね（笑）
次は同ＣＤのラストを飾った‘ｊｏｋｅｒ’のインスト曲に向けて書いたヤツをｕｐします。

ｔｗｉｌｉｇｈｔ（前書き）

作曲：ｊｏｋｅｒ

※同名インスト曲に向けての詩

twilight

沈みゆく太陽
残滓にすがる月
僕らはその間を
何度も何度も歩いていこう

手を振ったら明日はあるかい？
手を放したら今日はあるかい？
手を触れなければ昨日はないよ
そういう隙間で生きているんだ

また昇ってまた沈む
ただそれだけだとしても
僕らはいつかまた繋ぐだろう

聞こえたかい？
もう疲れたろう
聞こえたかい？
今日は終わるよ
聞こえたかい？
もう鳴り止んだよ
聞こえたかい？
また音は届くよ

いつか見た陽炎だけの
それだけに僕らはいない
透きとおる空に光が灯るまで
去りゆく陽を見ていよう

ほら、灯ったよ

ｔｗｉｌｉｇｈｔ（後書き）

前回ｕｐしたものと同様、ｊｏｋｅｒの曲に向けて書いた詩です。
単純にイメージを書いてみただけです。

そういえば、こういうふうに明確な対象がある詩ははじめてかもね。
まあ結局、自分自身に帰着している感は否めないが（笑）

空っぽの両手（前書き）

作詞：村雨

※作曲未定

空っぽの両手

目を閉じれば空が見えて
目を開ければ君がいたんだ
いつか見たはずの世界
いつか居たはずの世界

空は霞み君は消えた
果たせなくなって失せた光
もうそれが何なのか
そもそもあるのかさえ見えないよ

ねえ、もう僕には何もないよ
君が望むものなんてどこにもない
もうわかっているんだろう
ここにいるべきじゃなかったんだ

目を閉じれば君が見えて
目を開ければ夜が満たした
そこに見えたこの世界
黒と空のこの世界

何も言えず何も出来ず
ただ居るだけの虚ろな価値
切り捨てる勇気さえ
投げ出した勇気さえ見えないよ

ねえ、もう僕には何もないよ
なるべき自分もなりたい自分も
もう聞かないでください
ここにいるべきじゃなかったんだ

開き直るのも怖い
閉じ込めるのも怖い
認めるのも怖い
目を背けるのも怖い
会うのも怖い
一人も怖い
生きるのも怖い
死ぬのも怖い
すべて怖いんだ
もういやなんだよ

僕が救ったのは逃げ出したい自分
君が救ったのは君自身だ
君の居る砂の上から出て
誰もを傷つけていくんだ

ねえ、もう僕には何もないよ
そうして僕は損なわれていくんだ
もう見下しているんだろう
このままずっと失い続けるだけの人生

首を絞めて自分でやめる

そんな僕が嫌いなんだ
そんな僕は嫌いなんだ

もういいだろう
ここにいるべきじゃなかったんだ

空っぽの両手（後書き）

まず言っておきますが、自殺したいわけではないのでご安心を（笑）

この詞は、架空パンクの真似じゃないですけど、原詩があります。

一年ちょっと前、部活で辛いことがあって、ちょうどそのときに書いたものです。
自分で勝手に失敗して、人を泣かせて、勝手に全部投げ出して、人を巻き込んで、勝手に自分を傷つけていました。
当時は本当に死にたいぐらい辛かったし、実際あとちょっとで死ぬぐらいまでやったこともあります。

今はあのときに比べて、進化か退化かはわからないけど色々と変わりました。
それでも、あの時の嫌な感じは今でも通じているものがあります。
最近でも冗談じゃなく辛いことがあったし。

原詩に手を加えていくとき、まるで変えていくのを拒むみたいにやりにくかったです。
だから割とまんま載せてます。
こんど原詩も載せてみようかな。

読み返してみると、吐き気がするほど辛さが鈍く蘇ってきます。
書いたことを後悔するぐらいに。
でも、こんな僕もいるってことを、示しておきたかった。
他でもない、自分のために。

そんな利己的な詞ですが、いかがでしたか？

ひかりのうた

名前さえ与えられない横顔に
僕は触れようとした
届かなかったみたいだ
十分に揺らぎすぎて

ただひとつ知って欲しい
後悔しているんだ
僕だって知ってしまう
後悔しているんだ

僕も君も同じなんだ
息を吸って心を吐いて
違うのは　そうどこか遠くで
鳴り響くひかりのうた

自分さえ見つけられない風景を
君は描こうとした
見えなかったみたいだ
十分に揺らぎすぎて

ただひとつ知って欲しい
どうしても忘れない
僕だって知ってしまう
どうしても忘れない

僕も君も同じなんだ

ここで生きて心を削って
違うから　もう両手放して
耳塞ぐひかりのうた

僕が描いていくストーリー
君の時間を奪い去った
君がいないそのストーリー
僕の時間を止めてしまった

僕も君も同じなんだ
泣きじゃくって心を決めて
違うのに　この胸に届いた
重なり合うひかりのうた

君の音（前書き）

作詞：村雨

※作曲未定

君の音

羽根を持たない僕たちには
この空は広すぎたのか
飛べない鳥を待っているものは
何も見えない夜の光

羽根を持ってる人たちには
この空は狭すぎて
もう飛んでいることもわからない
全て溶けてく昼間の影

もう触れられないんだ
気付いてしまったから
未来を求めて伸ばした手の
その先にある昔の傷口

それでも僕らは歌えるんだ
通らない声　心の奥で
待っているよ　いつまでも
伝う想いが鳴らすまで

だから今は手を振ろう

羽根の代わりに背負ったのは
ちっぽけで重たいムスタング
鳴らしていくよ　僕らの傷を

揺るぎないその日々を

それでも僕らは歌えるんだ
通らない声　心の奥で
待っているよ　いつまでも
伝う想いが鳴らすまで

さよならを言ったぶんだけ
僕らは繋ぐ　君の音
さあほら　何も無いけれど
届くまでやめないでいるよ

君の音（後書き）

いずれ再びこの歌は登場します。
まだ先になると思いますが、この詞に絡めてとある作品を作ろうと思っていますので。

セレブレーション（前書き）

作詞・作曲：村雨

※制作中

セレブレーション

暗い壁を睨みつけて光へ手を伸ばす
待ち受ける日々のノイズを吸い込むために叫ぶ

いつかの日　感謝の気持ち忘れて
失うことに怯えたけれど
今ならば言えるだろう
「僕はここにいる」

Ｃｅｌｅｂｒａｔｉｏｎ　ｙｏｕｒ　ｂｉｒｔｈｄａｙ
今ここで会えたこと　それだけでいい
Ｃｅｌｅｂｒａｔｉｏｎ　ｙｏｕｒ　ｂｉｒｔｈｄａｙ
何も持たないままのあなたを祝おう

Ｈａｐｐｙ　ｂｉｒｔｈｄａｙ

意味のない日々を過ごしている
それでもいいんじゃない？
ほんのちょっとでも笑えば蝋燭の火は灯る

今日この日　そうやって悶えながら
必死に生きて傷つくけど
僕たちは叫べるよ
「本当にありがとう」

Ｃｅｌｅｂｒａｔｉｏｎ　ｙｏｕｒ　ｂｉｒｔｈｄａｙ
今ここで会えたこと　それだけでいい

Ｃｅｌｅｂｒａｔｉｏｎ　ｙｏｕｒ　ｂｉｒｔｈｄａｙ
何も持たないままのあなたを祝おう

Ｈａｐｐｙ　ｂｉｒｔｈｄａｙ

借りたものを返すまでは
ずっと歩み続けて

Ｃｅｌｅｂｒａｔｉｏｎ　ｙｏｕｒ　ｂｉｒｔｈｄａｙ
今ここで会えたこと　それだけでいい
Ｃｅｌｅｂｒａｔｉｏｎ　ｙｏｕｒ　ｂｉｒｔｈｄａｙ
何も持たないままのあなたを祝おう

Ｈａｐｐｙ　ｂｉｒｔｈｄａｙ

ララララ……

セレブレーション（後書き）

親友・真琴が誕生日だったんだけど、忙しかったから時間を置いて誕生会をやることに。
とゆーわけで書いてみた。

まあ、これを聴かせるわけでもないから完全な自己満だがな（笑）
だから、見てくれた全ての人々へのバースデーソングだと思ってください。

そういえば、初めて英語使った詞です。

三毛猫ステップ（前書き）

作詞：村雨

※作曲未定

三毛猫ステップ

携帯の電池が切れた
どうでもいいか　気にならんな
家のテーブルに財布忘れた
これはちょっと拙いかな

家路
捨て猫
とりあえず撫でておいて
早く家に帰ろう

捨てられない思いを
吐き出せずただ垂らす
三毛猫は心に住み着いたよ
涙を飲ませてあげよう

学校から電話が来た
どうでもいいか　適当でいいや
段ボールに心忘れた
取りに行こうか　まだ早いか

ステージ駆け抜ける輝きを思い出して
遠くどこか行きたい

捨てられない風景を
描けなくて画用紙破る
三毛猫はそっと欠伸したよ

そろそろ外へ出かけよう

恣意そのまま空飛びたい
シーソー漕いでホップステップ
四月前の後悔も
三年前と変わらないや

捨てられない風景を
描けなくて画用紙破る
三毛猫はそっと欠伸するよ
そろそろ出かけよう

捨てられない思いを
吐き出せずただ垂らす
三毛猫は心に住み着いたよ
涙を飲ませてあげよう

三毛猫ステップ（後書き）

新境地。

シンプルにイメージを形にしました。
初めてストーリー性を持たせてみた詞です。

冬の陽（前書き）

作詞：村雨

※作曲未定

冬の陽

早朝の小学生
道行く猫を撫でている
張る空気をふわりと舞う太陽

通学と二番線
君が来るのを待ってみる
冷えるベンチをそっと融く太陽

ふわり舞う　ふわり舞う
冬の陽の破片

透き通る空気の向こう
ぼんやり君が過ぎ去っていく
走ってみたら残り香
耳の痛みと陽の光

ふわり舞う　ふわり舞う
冬の陽の破片
そっと消える　そっと照らす
誰かの歩いた道

透き通る空気の向こう
ぼんやり君が過ぎ去っていく
走ってみたら残り香
耳の痛みと陽の光

視界の隅　窓の向こう
ずっとどこかで待っていて
心の音　鐘のように
透明な光と交うよ

冬の陽（後書き）

寒い日の朝の風景が大好きです。

君よ走れ（前書き）

作詞：村雨

※作曲未定

君よ走れ

「言葉だけじゃ足りない」
君は絵を描いた
白いキャンパスを染めていくポスターカラー

投げ捨てた筆と黒の絵の具
淡く朽ちていくなら破り去れよ

広すぎる空を眺めて笑おう
何もない君の手を見て言おう

君よ走れ

靴紐が解けたの
絵の具が無くなったの
どうして止まってくれないの

僕が止めてやるんだ
そう君が望むなら
でもまだそんな時じゃない
君だって嫌なんだろう

広すぎる空を眺めて笑おう
何もない君の手を見て言おう

君よ走れ

いつかまた動けなくなったら時計を止めてあげよう
その先は知っているはずだ
繰り返しだけじゃない

広すぎる空を眺めて笑おう
何もない君の手を見て言おう

君よ走れ

君よ走れ

君よ走れ（後書き）

僕なりの応援歌です。

現代を生きる皆さんへ、不器用な僕が小さくエールを。

十一月（前書き）

作詞：村雨

※作曲未定

十一月

何か暖かいものが流れました
十一月の晴れのせい
目を閉じれば見えてきます
寒い日の朝のせい

真夜中に雨が降りました
十一月の空のせい
遠くで貨物が走ります
寒い日の音のせい

あの日伸ばした手の先に
あなたは待ってくれますか
今振り向いた雑踏に
あなたは歩いてくれますか

朝早く目が覚めました
十一月の鳥のせい
路上に黒く丸まります
寒い日の猫のせい

まだあの日が忘れられない
意気地無しを笑ってくれますか
まだ諦めようとしない
不器用を蹴飛ばしてくれますか

あの日伸ばした手の先に
あなたは待ってくれますか
今振り向いた雑踏に
あなたは歩いてくれますか

笑ってください
蹴飛ばしてください
許さないでもいいから
泣かないでもいいから

届きますように（前書き）

作詞：村雨

※作曲未定

届きますように

僕の想いがどうか届きますように
そう呟いて両手合わせた
僕らはいつも雲の上
いつまでここにいるのだろう

空が崩れかけたとき
僕らはまだそこにいて
手を繋げずに待っている
涙さえも流せずに

『3』

君の願いがどうか叶いますように
手紙に書いて川に流した
僕らはいつも砂の上
いつまでここにいるのだろう

足が揺らぎかけたとき
僕らはまだここにいて
手を繋ごうと立っている
涙だけは流さずに

『・』

君の願いがどうか叶いますように
そう呟いてマイク放した
僕らはいつか空の下

どこかで鳴らすことだけでも
僕の想いがどうか届きますように

『1』

心が壊れかけたとき
僕らはまたここに来て
手を繋ぐために歩いている
涙を流していいように

『1』

閃光（前書き）

作詞・作曲：村雨

※製作中

閃光

今僕が此処に居たいのは
さよならを言う勇気が無いだけ
今僕が此処で鳴らすのは
伝えていることを示したいだけ

振り切ったレッドゾーン
ただそれを打ち崩す

今君と此処に居たいのは
自分の心臓を感じたいだけ
今君を此処で歌うのは
君の存在を信じたいだけ

割れ出したスピーカー
ただそれを打ち崩す

青色の閃光になって
遥か遠く夢を壊して
破片だらけの視界が
君の通らない声を証明して
飛ばせ

右手にちっぽけな答えを
左手にレス・ポールを
刻むＡマイナー
響け世界よ

青色の閃光になって
遥か遠く夢を壊して
破片だらけの視界が
君の通らない声を証明して
飛ばせ

迷えるCD（前書き）

作詞・作曲：村雨

※製作中

迷えるCD

レコードプレイヤー
君は用済みなのさ
デジタルプレイヤー
今は君の時代さ

ＬＰディスク
君はお払い箱さ
内臓ディスク
今は君の出番さ

次は誰の番？
次は僕の番？

ねえ僕に歌わせてよ
クールなビート刻みたいの
見えているでしょ
くるくるくるくる回してよ

冴えないロック
君は用済みなのさ
流行りのヒップホップ
今は君の時代さ

真空管アンプ
君はお払い箱さ
ＤＡＷソフト
今は君の出番さ

次は誰の番?
次は僕の番?

ねえ僕に歌わせてよ
ホットなソロでシビレるよ
聴きたいんでしょ
くるくるくるくる回してよ

次は誰の番?
次は僕の番?
次は誰の番?
次は君の番?

ねえ僕に歌わせてよ
クールなビート刻みたいの
見えているでしょ
くるくるくるくる

ねえ僕に歌わせてよ
ホットなソロでシビレるよ
聴きたいんでしょ
くるくるくるくる回してよ

迷えるCD（後書き）

新境地開いておきました。

だいぶ新しい試みだと思うんですけど……

いかがですかね？

正夢ホリディ（前書き）

作詞：村雨

※作曲未定

正夢ホリデイ

明日だけは楽しませたい
国民のホリデイ
明日だけはお願いね
めざましの占い

明日だけは信じたいよ
ＮＨＫのウェザーニューズ
明日だけを楽しみに
今週テストを頑張ったんだ

眠れないのは誰のせい？
カフェインなんかはとってない
眠れないのは誰のせい？
夢見た明日を想うよ

明日だけは寝癖無しで
半年ぶりのヘアワックス
明日だけ革ジャン着て
イカしたカッコをしてみよう

眠れないのは誰のせい？
照明なんかはつけてない
眠れないのは誰のせい？
夢見た明日を想うよ

目を閉じてみたって
どうせまた君がいるんだ

神様お願い
正夢にして

眠れないのは誰のせい？
雑音なんかは聞こえない
眠れないのは誰のせい？
夢見た明日を想うよ

リフレイン（前書き）

作詞：村雨

※作曲未定

リフレイン

どうか
ねえ
どうかそのままで

もう飽いた
凪いだ温い風
正解はどこかの頂上で
それは泣いた空
ナイター
ライトアップ

どうか
ねえ
どうか変革を

そう吐いた
描いた論理とハート
正解はどこかの長城で

きっとずっとリフレイン
振動回路
理論上の熱量保存
永遠性
循環パワーコード
輪廻の想像に酔う

劣等感

レッテル
弾くレインコート
触れるなって
連絡船
テープ切って行ってこい

きっとずっとリフレイン
振動回路
理論上の熱量保存
永遠性
循環パワーコード
輪廻の想像に酔う

少年の夢（前書き）

作詞：村雨

※作曲未定

少年の夢

遠く遠く　海の向こう
イカロスの羽根をもぎ取った
勇気と希望を置いたまま
僕らはどこまで行くのだろう

遥か彼方　空の向こう
ルシフェルの羽根を剥ぎ取った
裏切り　損ない　傷をつけ
僕らはここまで笑えるの

ああ世界が憎い
その夢さえ儚い
どの光も汚い
ほら君だけ眩い

すべてをくれよ
すべてをくれよ
もう待てないよ
今果てたいよ

すべてをくれよ
すべてをくれよ
空飛びたいよ
雨止めたいよ
目の前の扉開けたいよ

あのあと彼らは死んでいった

それが何だっていうんだ
あのあと僕らはキスをした
それが正しい　そうだろう
すべてをくれよ
すべてをくれよ
もう待てないよ
今果てたいよ

すべてをくれよ
すべてをくれよ
空飛びたいよ
雨止めたいよ
目の前の扉開けたいよ

ロック・スター（前書き）

作詞：村雨

※作曲未定

ロック・スター

皮肉なものだ
いつかより僕らはずっと僕ららしい
ぶつけて損なうものなんて
本当はもともと無いのかな

悩むな　止まるな　傷つくな
時間の無駄だと言うけれど
僕らは何でこの街で
もがき苦しみ生きるのか

痛みの消えた人生なんて
きっとそんなの意味は無い
ロック・スターになりたいよ
誰かが生きる　そのために

君は誰かを救うため
走り続けるというのに
どうして僕はこんなにも
惨めな夢を求めるの

悩んで　止まって　傷ついて
命を賭して歌うならば
僕らはいつか叶うまで
君の笑顔を祈っている

痛みの消えた人生なんて
きっとそんなの意味は無い

ロック・スターになりたいよ
誰かが生きる　そのために

フレディだって
レノンだって
いつかどこかで鳴らしている

ボーナムだって
コバーンだって
いつかどこかで泣いている

痛みの消えた人生なんて
きっとそんなの意味は無い
ロック・スターになりたいよ
誰かが生きる　そのために

ＬＩＮＫ（前書き）

作詞：村雨

※作曲未定

LINK

今日は何時に起きたとか
昨日誰に怒られたとか
僕は誰とも違って
他の誰とも違う

いつ　どんな傷を負い
どうして心閉じたのか
君は誰とも違って
他の誰とも違う

知らない誰かと手を繋ぐ
それは理想だと笑うのかい？
理解なんて求めていない
新たな世界を感じるかい？

歌を歌おう
君がそこにいることに
歌を歌おう
僕ら　ここで繋ぐんだ

本当に大切なもの
本当に必要なもの
便利なテレビなんかじゃない

本当に大切なもの
本当に必要なもの
すべてを壊せるちっぽけな

歌を歌おう
君がそこにいることに
歌を歌おう
僕ら　ここで繋ぐんだ

明日をそこに見ることでも
昨日をただ嘆くことでも
そんなことを言いたいんじゃない

もっと単純に
誰もが持つ鎖を右手に
心の旗を左手に
見えるだろう
すべて繋がるんだ

歌を歌おう
君がそこにいることに
歌を歌おう
僕ら　ここで繋ぐんだ

君と僕を繋ぐんだ
誰かと世界を繋ぐんだ

ＬＩＮＫ（後書き）

僕が音楽を好きでいる理由です。

無条件に人を繋いでくれる。

祈り（前書き）

作詞：村雨

※作曲未定

祈り

僕が今ここにいること
きっとその下にはいくつもの犠牲があって
それなのにこんなにも輝けない

君が今そこにいること
ずっと誰にだって見られずに
ひとりで戦い続けている
だからこそ美しい

祈ろう
いつか君の言葉が世界を照らすまで

叫ぼう
いつか僕の想いが世界を揺らすまで

僕が今ここにいること
きっとそれだけでも充分に夢を叶えられて
それなのにどこまでも動けない

君が今そこにいること
ずっと傷ついて
たったひとり　自分の夢を探している
こんなにも煌めいて

祈ろう
いつか君の言葉が世界を照らすまで

叫ぼう
いつか僕の想いが世界を揺らすまで

何がいけないことで
何が出来ないことで
何をするべきなのか
どこかで分かっているんだ

答えなんて無いはずの自由
ただそれだけを求めて
風に吹かれて傷だらけになろう

祈ろう
いつか君の言葉が世界を照らすまで

叫ぼう
いつか僕の想いが世界を揺らすまで

サンダル少年（前書き）

作詞：村雨

※作曲未定

サンダル少年

冷えきった月が照らす路地
どこへ行くのかサンダル少年

街灯が揺らぐ線路道
ただ歩くのはサンダル少年

彼の目には世界が見える
彼の目には歪みが見える

暗闇　世界を覆うように
君を解かすような陽になりたい
雫が光を放つように
涙拭うような風になりたい

ぐらついた時計刻む公園
どこへ行くのかサンダル少年

雑音をゆるく流す家
ただ探すのはサンダル少年

彼の目には光が見える
彼の目には痛みが見える

暗闇　世界を覆うように
君を解かすような陽になりたい
雫が光を放つように
涙拭うような風になりたい

届かぬような優しさを
本当の意味の優しさを

彼の目には全てが見える
彼の目には自由が見える

暗闇　世界を覆うように
君を解かすような陽になりたい
雫が光を放つように
涙拭うような風になりたい

テニスコート・ウォーゲーム（前書き）

作詞：村雨

※作曲未定

テニスコート・ウォーゲーム

王子様のステップ&ステップ
お嬢様のヒット&アウェイ
当たって砕けてまた明日
本当の答えはまた明日

そこの君とギブ&テイク
ニクい君とキャッチ&リリース
今度は決着また明日
本当の答えはまた明日

テニスコートでウォーゲーム
伝えて私のレーザービーム
テニスコートでウォーゲーム
あの子を撃ち抜くレーザービーム

ボブ・ディランのロック&ロール
ジョン・レノンのツイスト&シャウト
流しっぱなしでまた明日
本当の答えはまた明日

ワタシとアナタのキス&クライ
ワタシとアイツのボーイ&ガール
なにがなんだかまた明日
本当の答えはまた明日

テニスコートでウォーゲーム
伝えて私のレーザービーム

テニスコートでウォーゲーム
あの子を撃ち抜くレーザービーム

ずっと真っ直ぐ
ずっとひたむき
ずっと不器用
そんなもんです

テニスコートでウォーゲーム
伝えて私のレーザービーム
テニスコートでウォーゲーム
あの子を撃ち抜くレーザービーム

不死身のエイトビート（前書き）

作詞：村雨

※作曲未定

不死身のエイトビート

ステージの上　Tシャツの英雄は
「間違っている　最悪だ」
マイクをへし折った

雑踏紛れ　Yシャツの反逆者
「そんな力は僕にない」
誰かにぶつかった

テレビの向こう側
最後の勇者よ
まだまだ終わらせないぜ
消えたって無駄だぜ
不死身のエイトビート

ディスクを回す　Tシャツの英雄は
「俺らは死んだ　見てみなよ」
ギターをぶん投げた

どこかの公園　Yシャツの反逆者
「僕らがいつか取り戻す」
言葉は消えていった

テレビの向こう側
最後の勇者よ
まだまだ終わらせないぜ
消えたって無駄だぜ
不死身のエイトビート

いつか消えてなくなるなんて
そんなのきっと嘘じゃない
目を見開いて夢を見ろ
銃声なんか超えてやる

テレビの向こう側
最後の勇者よ
まだまだ終わらせないぜ
消えたって無駄だぜ
不死身のエイトビート

もう一歩（前書き）

作詞：村雨

※作曲未定

もう一歩

はじめて君と出会った日なんて
覚えてはいないけどさ
きっとそのときからずっと
僕らしくありたかった

だってそうだろ?
まだそこに壁がある
だってそうだろ?
まだそれを壊してない

正しくないもの蹴散らして
もう一歩だ　さあ　もう一歩
大人の言い訳振り切って
もう一歩だ　さあ　もう一歩

いつかは君と涙流そう
それまで泣かないでいよう
ずっとそれまで君らしくいて
僕はただ願っている

だってそうだろ?
まだそこに闇がある
だってそうだろ?
まだ光差してない

理不尽なんかを蹴散らして
もう一歩だ　さあ　もう一歩

誰かの泣く声聞き分けて
もう一歩だ　さあ　もう一歩

だってそうだろ？
まだそこに君がいる
だってそうだろ？
まだそこまで来ていない

本当の自由へ　その道を
もう一歩だ　さあ　もう一歩
本当の君へ　その坂を
もう一歩だ　さあ　もう一歩

太陽道路（前書き）

作詞：村雨

※作曲未定

太陽道路

ねえローラ　聞いてよ
あの子はとってもいじわるで
いつもわたしをいじめるの
どこかに心を持っていくの

ねえローラ　聞いてよ
あなたはとってもやさしくて
いつもわたしを助けるの
どこでもわたしを守って

ねえ　ねえ
お日さま　照らして
なるべく速く
どんな違いも繋いでよ
走るのだったらまかせてよ
ハイブリッドな身体で
ゴー　ゴー

ねえローラ　聞いてよ
あの子はとってもいじわるで
いつもわたしを悩ますの
どうしてこんなに痛いのよ

ねえローラ　聞いてよ
あなたはとってもやさしくて
いつもわたしと話してよ
どうしてこっち見ないの

ねえ　ねえ
お日さま　照らして
なるべく速く
どんな違いも繋いでよ
走るのだったらまかせてよ
ハイブリッドな身体で
ゴー　ゴー

アウトコースでストレート
きっともう気付いている
それで

ねえ　ねえ
お日さま　照らして
なるべく速く
どんな違いも繋いでよ
走るのだったらまかせてよ
ハイブリッドな身体で
ゴー　ゴー

アウトコースでストレート
きっともう気付いている
それで

太陽道路（後書き）

イタリアの南北格差を是正するために建設された道路「太陽道路」。
現地の言葉では「アウトストラーダ＝デル＝ソーレ」と言います。
この名前がカッコ良すぎて（笑）

真冬の空、散る花火（前書き）

作詞：村雨

※作曲未定

真冬の空、散る花火

想像ブルース　流れる朝
開いた瞳に飛び込む
言葉と心の歪みを
閉ざしたアパートで

光のダンス　カーテンの陽
揺らいだ心が溶け出す
世界と個室の距離を
繋いだ導線で

張った氷の上に映る
宝石の光
掠れる言葉は届いて
響く声

何がいけないんだ　言え
分かるわけないじゃないか
子猫さえ鳴けないような
白い時代が降るなら
咲けよ

のぼせた空気の層
ずれていく視界の
隅でそっと寄り添う
季節外れの夢のミサイルを

何がいけないんだ　言え

分かりたいだけじゃないか
君だって泣きたいような
白い時代が降るなら

何がいけないんだ　言え
分かるわけないじゃないか
子猫さえ鳴けないような
白い時代が降るなら
咲けよ

舞い散る雪と猫のマーチ（前書き）

作詞：村雨

※作曲未定

舞い散る雪と猫のマーチ

くだらない自分を吐き出し続けて
僕の中の何かが止まってしまった
あてどない理想と君の絵を塗り潰して
渡し損ねた贈り物をしまい込んだ

君の探した君を探した
本当は駄目なんだ
探し求めた君を探した
本当は嫌なんだ

雪の舞う交差点から僕は走り出した
これでいいはずないじゃないか
君はまだいるじゃないか
何処までも広がる夢の中から抜け出したいんだ
陽の沈む線路の先　ちっぽけな木箱を取り出した

踏切が降りていくその先の光の中に君が見えた
「今度は何処へ行こうか」そう言うことも出来ずに

君の探した君を探した
本当は駄目なんだ
探し求めた君を探した
本当は嫌なんだ

雪の積もる草原から猫が歩き出した
これでいいはずないんだけど
あなたはもういないから

いつまでも流れる水の行き先　何処まで続くの？
陽を求む水平線　高く空を仰いで飛び出した

見つめられたその先、僕らがいた
手を伸ばさない伸ばせない、僕らがいた
本当を隠した、僕がいた

雪の舞う交差点から僕は走り出した
これでいいはずないじゃないか
君はまだいるじゃないか
何処までも広がる夢の中から抜け出したいんだ
陽の沈む線路の先　ちっぽけな木箱を取り出した

もう一度走って行くよ
渡したいものがあるんだ

舞い散る雪と猫のマーチ（後書き）

ハッピークリスマス！

皆さんの願いが叶いますように。

カードゲーム（前書き）

作詞：村雨

※作曲未定

カードゲーム

そのカードを引け
切り札だ
出し惜しみなんかしてられない

そのカードを引け
臨界だ
舞い散る火の粉にご用心

声が届いたその刹那
ブラック・ジャックが空を凪ぐ
確率論のその向こう
真理はどこだ
引き当てろ

閃光キラリ見えたなら
躊躇い捨てて手を伸ばせ

そのカードを引け
必殺だ
レーザービームが山を焼く

そのカードを引け
限界だ
爆発カウント３・２・１

ゼロが響いたその刹那
大貧民が蜂起する

幸福論のその先へ
真理はどこだ
引き当てろ

閃光キラリ見えたなら
躊躇い捨てて手を伸ばせ

声が届いたその刹那
ブラック・ジャックが空を凪ぐ
確率論のその向こう
真理はどこだ
引き当てろ

閃光キラリ見えたなら
躊躇い捨てて手を伸ばせ

カードゲーム（後書き）

別枠で投稿している新企画「ｖｓ．架空パンク」のノリで、架空パンクがお題を出して来ました。
「カード」「レーザー」「山火事」です。
お題の数×１０分の制限時間で２７分かかりました（笑）
架空パンクの凄さを実感。

夜明け（前書き）

作詞：村雨

※作曲未定

夜明け

世界よ　やさしく
地球よ　争う

世界よ　平和に
地球よ　戦う

今年の疲れは今日のうちに
明日の疲れも今日のうちに

世界よ　楽しく
地球よ　涙を

世界よ　喜び
地球よ　略奪

今年の疲れは今日のうちに
明日の疲れも今日のうちに

新たな夜明けは僕らの中
終わりと日の出の天秤で
あそこの石と少し違う
ただそれだけでいいだろう

世界よ　音楽
地球よ　雑音

世界よ　タワーに

地球よ　突っ込む

今年の疲れは今日のうちに
明日の疲れも今日のうちに

新たな夜明けは僕らの中
終わりと日の出の天秤で
あそこの石と少し違う
ただそれだけでいいだろう

夜明け（後書き）

よいお年にしましょう。

羅針（前書き）

作詞：村雨

※作曲未定

羅針

航海は続く
地平線のその先を

航海は続く
あてもなくどこまでも

北を指さないコンパス
そこに狂いは無いはずだ

航海は続く
予定も何もありはしない

航海は続く
波風進むそのままに

北を指さないコンパス
そこに狂いは無いはずだ

示した先は決まっている
マゼランでさえ辿り着けない
僕らは海を行くだけだ
海が招いた訳じゃない

針を読むのはクルーより僕だ

航海は続く
手を繋いでいくために

航海は続く
涙を流していくために

北を指さないコンパス
そこに狂いは無いはずだ

示した先は決まっている
マゼランでさえ辿り着けない
僕らは海を行くだけだ
海が招いた訳じゃない

針を読むのはクルーより僕だ

羅針（後書き）

新年一発目です。
明けましておめでとうございます。

本当の世界（前書き）

作詞：村雨

※作曲未定

本当の世界

「明日はあなたと会いましょう」
たったひとこと　僕は居る
極端かい？
そんなことない
きっと誰でもそうでしょう
でも「誰でも」は嫌でしょう

ねえねえ聞いてよ
今日はほら　僕はこんなに苦しくて
コーヒーなんかなくたって
瞼はずっと閉じないで

レールの上を伝わって
いつかの君に会いに行く
たとえば今は違くても
あの日と今日を縮めよう

待っている
ただそれだけが
本当の世界だ

ねえねえ聞いてよ
明日はもう君はどうして居ないのさ
電話やメールがあったって
この手はずっと届かない

レールの上を伝わって

いつかの君に会いに行く
たとえば今は同じでも
あの日と今はずれている

待っている
ただそれだけが
本当の世界だ

「明日はあなたと会いましょう」
たったひとこと　僕は居る
極端かい？
そんなことない
きっと誰でもそうでしょう
でも「誰でも」は嫌でしょう

待っている
ただそれだけが
本当の世界だ

横顔の天使（前書き）

作詞：村雨

※作曲未定

横顔の天使

籠の中の少女は奏でた
「自由の代わりに歌をください」

ピアノに咲いた鳥は鳴いた
「ごらん、僕の目には君が映る」

胸の奥の風景と心の絵画
双眼鏡の向こうにあなたはいますか

横顔の天使
あなたこそ愛だ
僕の未来はそれでいい
月明かりに涙煌めいて
空の色は、そう、いつかの青

夢の中の少女は探した
「私の明日はどこにもないの」

描いた夜空の鳥は泣いた
「そうか、それならそれでいい」

音の響く湖に届いた波紋
蓄音機のノイズをあなたは見ますか

横顔の天使
あなたこそ愛だ
僕の未来はそれでいい

月明かりに涙煌めいて
空の色は、そう、いつかの青

負から走る光
僕のどこかをゼロに変えた
正へと辿り着いたのはあなたですか

横顔の天使
あなたこそ愛だ
僕の未来はそれでいい
月明かりに涙煌めいて
空の色は、そう、いつかの青

ミスター・ローリング（前書き）

作詞：村雨

※作曲未定

ミスター・ローリング

世界に届けたいけれど
君の目さえ見られないのに
そんな僕の心は何だろう

さよならレス・ポール
そんなの嫌だ
暮れゆくオレンジ
手をそっと抜けて

ミスター・ローリング
血みどろ孤独の英雄
失い嘆いた僕のこと
「もとから無いぜ」と言ったんだ

空まで羽ばたきたいけれど
君の所まで行けないのに
そんな僕の心は何だろう

さよならムスタング
も少し待って
昇ったライム
手をそっと抜けて

ミスター・ローリング
血みどろ孤独の英雄
失い嘆いた僕のこと
「もとから無いぜ」と言ったんだ

ほら
今君は雫を無くした
本当は失えるんだ
ゼロになろう

ミスター・ローリング
血みどろ孤独の英雄
失い嘆いた僕のこと
「もとから無いぜ」と言ったんだ

ミスター・ローリング
聞こえるよ

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

　ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4650v/

詞集

2012年1月10日23時51分発行